

静岡県における安全安心で魅力ある県土づくりを目指した事前防災・減災対策の推進（防災・安全）（緊急対策）

（１）事業の目的

近年、局所的な集中豪雨（ゲリラ豪雨）が頻発していることに加え、地球温暖化に伴う異常気象化が顕著に進行するなどの被害リスクの増大に対し、地域と連携・協力しつつ河川整備を進めることで、水害に強く、美しい地域づくりを行うとともに、安全安心で魅力ある県土づくりを推進する。

（２）指標

- 指標①：時間50mm規模の降雨による洪水に対する安全性が確保された河川の延長を899.5km（H24）から922.5km（H29）に延伸する。
- 指標②：近年発生した床上浸水の被害戸数から被災時と同程度の出水に対して、河川整備により床上浸水被害が解消された戸数を1,638戸（H24）から2,118戸（H29）に増加させる。
- 指標③：雨水を一時的に貯留し流出抑制を図るため、雨水貯留施設数を増加する。
（10施設→15施設）
- 指標④：河川管理施設のライフサイクルコスト縮減を図るため、21施設について長寿命化計画に準じて延命処置を行なう。

指標の達成状況

- 指標①：計画期間中23kmの整備を予定していたが、実績は18.7kmと目標を達成できなかった。
- 指標②：計画期間中480戸の床上浸水被害の解消を予定していたが、実績は329戸と目標を達成できなかった。
- 指標③：計画期間中に公共施設における雨水貯留施設の15箇所の整備が完了し、目標を達成した。
- 指標④：計画期間中に静岡県管理水門等の47施設の長寿命化計画の策定が完了し、目標を達成した。

No.	定量的指標	当初現況値	最終目標値	最終実績値	達成率
①	要改修延長（1714.9km）のうち、一定の水準（50mm/h）の整備が完了している延長	899.5km	922.5km (23km)	918.2km (18.7km)	81.3%
②	平成10年度から平成24年度までの間に床上浸水を受けた家屋（2,720戸）のうち、被災時と同程度の出水に対して、河川整備により床上浸水被害が解消された家屋数	1,638戸	2,118戸 (480戸)	1,967戸 (329戸)	68.5%
③	公共施設における雨水貯留施設数	10施設	15施設 (5施設)	15施設 (5施設)	100.0%
④	静岡県管理水門等の長寿命化計画策定数	10施設	47施設 (37施設)	47施設 (37施設)	100.0%

(3) 指標に関連する実施事例

1-A1-3 瀬戸川広域河川改修事業

洪水時に氾濫の危険性が高い区間において、河道掘削による流下能力の向上を図る河川整備により、流域の住民の安全性を確保する。

着手前



着手後(流下能力向上)



1-A1-9 巴川流域貯留浸透事業

雨水を一時的に貯留し、流出抑制を図ることで流域の浸水被害を軽減する。

草薙総合運動場



利用者への周知



(4) 定量指標以外の効果発現状況

- ・ 着実に河川整備を推進したことで、風水害による死者数0を達成した。
- ・ 「多自然川づくり」による景観や生態系の配慮を行なうとともに、良好な河川空間を創出した。
- ・ 安全・安心な地域づくりを進めたことにより流域での住宅地の進展、工業団地の企業立地などに寄与した。

瀬戸川



朝比奈川



(5) 今後の方針と達成見込み

引き続き、地権者との合意形成に努めながら、後継の計画において各種事業の進捗を図り、安全安心で魅力ある県土づくりを目指した事前防災・減災対策を推進するものとする。